「明石の海岸線・観察会」第2弾　　報告書

目的：「明石の自然歩き隊」の海岸ウォーキング実施に向けての事前調査

対象：エコウイング自然グループメンバー　　参加者5名

場所：江井島 から藤江まで　約6km

日時：2010年6月12日(土)　10時　山電江井島駅集合　藤江海岸駐車場で午後3時30分解散

スタート地点：江井島東の駐車場下から　しばらくは調査する砂浜は無し
①から浜に降り観察開始
②八木の船留め、明石に残る唯一の昔ながらの海岸
この辺りから③、④谷八木川までアマモを含め多くの生き物、植物が観察できた。
また⑤の一画には国の実験地区があった。

①　カワウ

②　八木船留め　　この200mほどが昔ながらの海岸

丸い瓦、石の海岸線
その先は遠浅の砂浜が続く
そこで多くの生き物を観察できた

オオキンケイギク(特定外来種)→除去

アマモの群生

ポールの裏に
シロスジフジツボ

層状に貝が付着している(アラレタマキビ)

イシダタミガイ(明石の海岸で一番目にする)

イワフジツボ

タテジマイソギンチャク

カメノテ(八木から谷八木の突堤隙間に多く見られる)

ハマボウフウ

ハマユウ(3株ほど)自然のもの？

③ 八木から谷八木まで　　多くの海浜植物が観察できた

ハマヒルガオ

ハマエンドウの種

ハマゴウ

オカヒジキ(海に近い砂浜)

ツルナ

コウボウシバ

コウボウムギ(芝に比べ少ない)

④ 谷八木　河口まで

メマツヨイグサ(背の低いコマツヨイグサも多く見受けられる)

ママコノシリヌグイ

谷八木川西の大きな砂利の浜にはホソムギやカラスムギが多く繁茂していた
(史前帰化植物)
また、クコ、アカメガシワ、エノキ？、ナワシロイチゴも観察された

波の影響で砂利が山となっている

谷八木川(コイ、ボラ、アカミミガメ)

ハマゴウ

チガヤの群生(一箇所のみ)

⑤ 谷八木川東から藤江まで　　2ブロック:「東磨海岸海浜植生復元実験地区」あり

西を望む

東を望む

実験地区1:コウボウシバ、コウボウムギなど

実験地区2:(1の東)
ハマゴウの群落

ハマゴウ

藤江川　この東が藤江漁港

アメリカネナシカズラ
かなりの範囲で
寄生が進んでいる

ハマウド
(あちこちの崖で)

藤江港

藤江港東

遠くに見えるのは
駐車場のある藤江海岸
ここが終点

立ち入り禁止区域

※ 観察された野鳥(50音順)/11種＋外来種/1種

・イソヒヨドリ　・カワウ　・カワラヒワ　・スズメ　・ツバメ
・トビ　・ハクセキレイ　・ハッカチョウ(外来種)　・ハシブトガラス
・ヒバリ　・ヒヨドリ　・ムクドリ

「イソヒヨドリ」
八木遺跡公園にて